

令和 5 年度

事業報告

社会福祉法人 光寿福社会

総 括

～重点目標への取り組みから～



令和5年度の社会福祉法人の事業総括の特徴は、それまでの概略的、抽象的、観念的な総括から具体的、統計的、可視的なそれへと改革した所であります。

例えば特養の稼働率にしてみても、それまでは空床を何とか埋めなければいけないということは観念的にはわかっているが、その方法、時間的なリミットなど具体的には何も解らずじまいでこれまでやってきました。

また、施設内事故に関してもその起きた5W1Hに対し、しっかり統計を出し、そこからどの点に重点的に留意すべきかを検討する運びにいたりしました。

次に利用者様の確保についてもいかにPRを巧みに考案するか、また職員離れを起こしてしまった現実はどう対処するかなど、「困った、困った」ではなく如何にすればこの事態を打開できるかを施設長を中心に考えてきたところであります。

しかし、外的要因コロナ感染症余波がなかなか終息せず、ユニットの隔離、職員の出勤停止など直積的に打撃を受けたのは事実です。

さらには長らく法人のために貢献してくれていた職員も含めた6名が退職するに至ったところは誠に遺憾でありました。その抜けた穴埋めにかなりの労力を費やしました。

そのような中で職員のキャリアパスを重点的に見直し、資格取得と報酬がマッチして職員に向上心とやる気を出してもらえるよう配慮してきたところであります。

【理事長 谷口 恵純】

特別養護老人ホーム

利用状況

令和 5 年	利用人数（人）	利用日数合計（日）	稼働率（%）
4 月	56	1,707	81.3
5 月	59	1,887	87.1
6 月	63	1,890	90.1
7 月	67	2,077	95.9
8 月	66	2,113	97.4
9 月	69	2,055	98.0
10 月	67	2,085	96.2
11 月	67	2,015	96.1
12 月	67	2,057	94.9
1 月	67	2,022	93.4
2 月	65	1,880	92.8
3 月	64	1,948	90.0

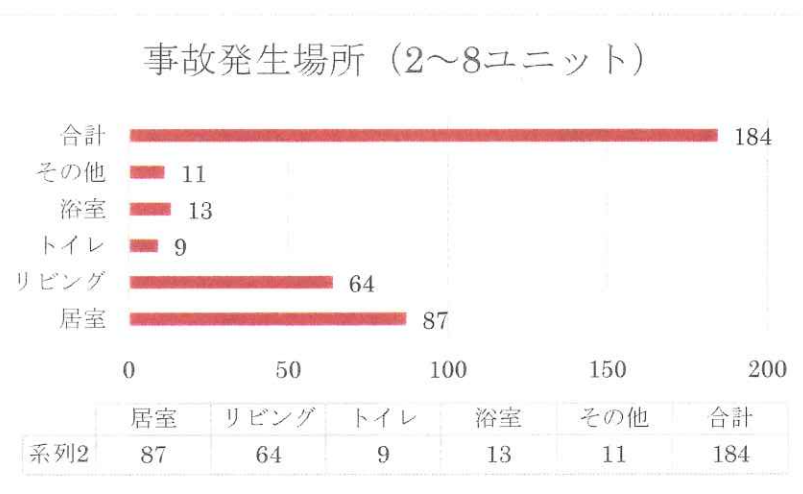
令和 5 年度から重点目標を掲げ目標に挑んできた。4 月、5 月と稼働率は低迷したが、7 月～11 月までは 95%以上の稼働率を維持できていた。1 月～3 月までは看取り対応の入居者が続いて亡くなったことによる影響を受けた。年間では 92.7%の稼働率であった。入院は月平均 2～3 名程度であった。

令和 5 年度年間事故・ヒヤリハット報告

1. 事故報告

●事故発生場所

場所	件数
居室	87
リビング	64
トイレ	9
浴室	13
その他	11
合計	184



※台所はリビングに含む。

※特浴は浴室に含む。

●月別発生件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
22	11	17	22	16	15	14	15	13	16	7	16	184

●発生事故内容

転倒	62
骨折	1
剥離	76
外傷	21
誤薬	16
誤嚥	2
その他	6
合計	184



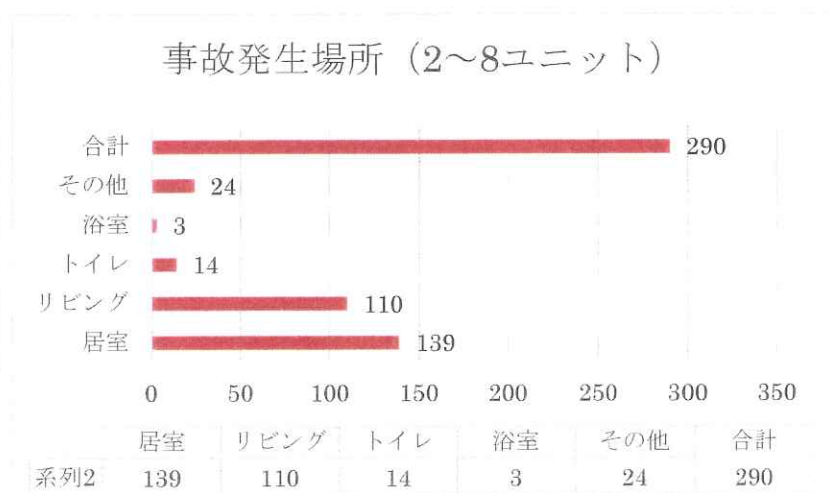
※転落は転倒に含む。

※皮下出血は剥離に含む。

2. ひやりハット報告

●事故発生場所

場所	件数
居室	139
リビング	110
トイレ	14
浴室	3
その他	24
合計	290



※台所はリビングに含む。

※特浴は浴室に含む。

●月別発生件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
7	29	41	20	12	14	28	38	32	39	18	12	290

●発生事故内容

転倒	175
異食	10
剥離	3
外傷	18
誤薬	19
誤嚥	19
その他	46
合計	290



※転落は転倒に含む。

※皮下出血は剥離に含む。

※その他の項目に含まれるもの・・・バルン抜去、離設、窒息、利用者同士のケンカなど

令和5年度を受けての課題

健全で堅実な経営においては、稼働率100%の達成を掲げてきた。8月に達成はしたが、結果年間で92.7%となった。令和6年度は95%維持が目標である。

良質なケアの提供においては、ユニットでの炊飯を実施できなかった。生活スペースで食事の匂いも楽しんでもらうためにも令和6年度に引き続き取り組む課題である。また看取りケアの推進は実施できたが、レベルの向上とまでは至らなかった。今後、実践や研修での学びに期待するところである。行事は状況をみながら実施でき入居者にも楽しんでもらえた。しかしながら、ホームページやSNS等の外部を意識した発信は充実したものとならなかった。

人材の育成・開発においては年2回の面接を実施でき、人事考課制度も導入に至った。職員のやりがいや意欲の向上に繋がるような運用が課題である。また資格取得のサポートを掲げてきたが、対象者がおらず資格の種類、サポートの範囲を検討することが求められた。

地域貢献においては夢の森伴走者CUEとの連携において本館1Fでカフェスペースと

して開放することができた。

今後も地域に選ばれる施設となれるよう職員とともに日々研鑽に努めて参ります。

【施設長 津田 剛】

ショートステイ光寿園

利用状況

令和5年	利用人数（人）	利用日数合計（日）	稼働率（%）
4月	38	265	113.3
5月	35	233	98.4
6月	32	203	92.3
7月	35	182	83.5
8月	40	188	83.9
9月	38	230	102.0
10月	39	217	97.1
11月	34	210	95.0
12月	37	211	90.0
1月	31	204	83.5
2月	33	205	90.3
3月	33	218	90.6

特別養護老人ホームの稼働率が下がった際の空床利用である4、5月や9月～11月までは特別養護老人ホームと併せて95%以上の稼働率を維持できていた。ただし、7、8月と12月～3月は稼働率が下がっており、年平均稼働率93.3%であった。12月～3月の低迷については、よりよいサービスを受けるため他事業所にサービスを変更された利用者が一定数いることが影響した。

令和5年度年間事故・ヒヤリハット報告

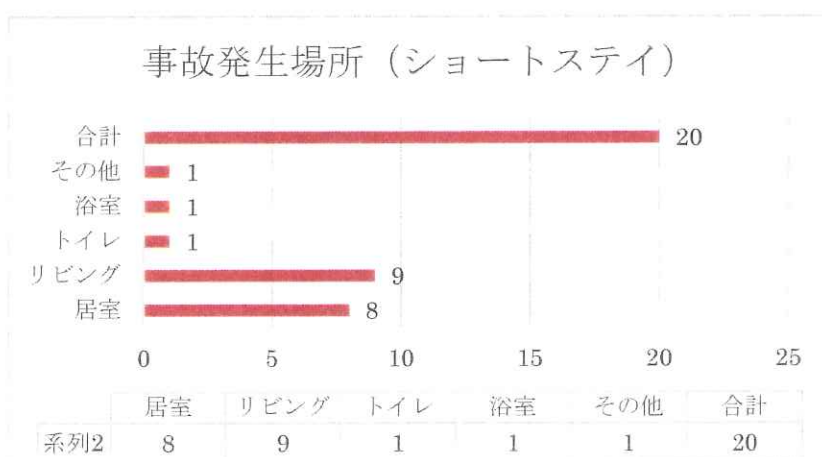
1. 事故報告

●事故発生場所

場所	件数
居室	8
リビング	9
トイレ	1
浴室	1
その他	1
合計	20

※台所はリビングに含む。

※特浴は浴室に含む。



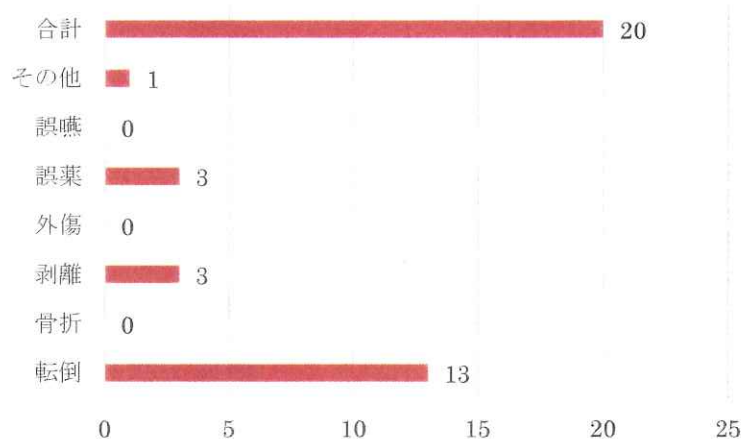
●月別発生件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
3	3	2	1	2	2	1	1	1	1	0	3	20

●発生事故内容

転倒	13
骨折	0
剥離	3
外傷	0
誤薬	3
誤嚥	0
その他	1
合計	20

発生事故内容（ショートステイ）



※転落は転倒に含む。

※皮下出血は剥離に含む。

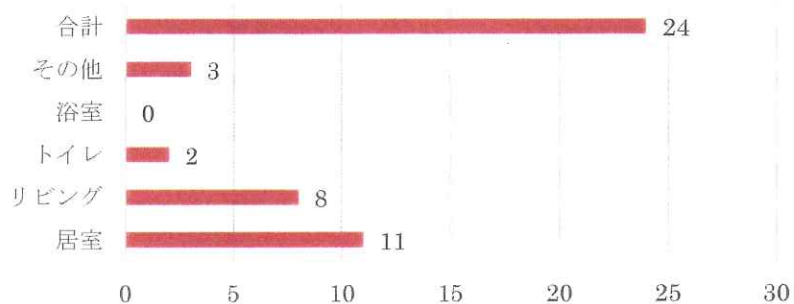
	転倒	骨折	剥離	外傷	誤薬	誤嚥	その他	合計
系列2	13	0	3	0	3	0	1	20

2. ひやりハット報告

●事故発生場所

場所	件数
居室	11
リビング	8
トイレ	2
浴室	0
その他	3
合計	24

事故発生場所（ショートステイ）



※台所はリビングに含む。

※特浴は浴室に含む。

	居室	リビング	トイレ	浴室	その他	合計
系列2	11	8	2	0	3	24

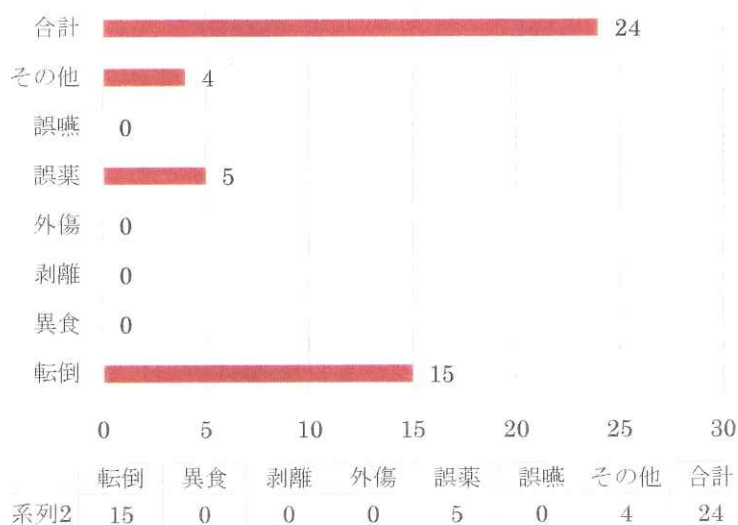
●月別発生件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1	2	1	0	0	2	5	5	1	1	1	5	24

●発生事故内容

転倒	15
異食	0
剥離	0
外傷	0
誤薬	5
誤嚥	0
その他	4
合計	24

発生事故内容（ショートステイ）



※転落は転倒に含む。

※皮下出血は剥離に含む。

令和5年度を受けての課題

良質なケアの提供においては、季節を感じていただける行事を実施し利用者に楽しんでいただくことができた。人員が不足しており、ショートステイの職員が送迎に携わることができず、家族との信頼関係の構築に至らなかった。また当サービスは自宅での生活の継続にあることから自宅訪問を目標にしていたが実施できなかった。しかし、利用者を理解したいという思いで担当者会議を実施することはできた。

働きやすい職場環境においては、生活相談員を含めた毎月のユニット会議を目標にしていたが実施できなかった。そのことで情報の共有ができず、小さなミスが起きてしまい、ミスが積み重なり利用者、その家族に不快な思いをさせてしまい、結果として苦情に繋がるケースが数件起こってしまった。

今後は、安心して過ごしていただけるよう体制を整え、職員一同、丁寧なケアに努め、地域に選んでいただけるサービスになれるよう日々ケアに邁進していきたいと思います。

【管理者 津田 剛】

デイサービスセンター光寿園

利用状況

令和5年	1日平均利用人数(人)	利用延べ人数	営業日数	稼働率(%)
4月	14.4	360	25	57.6
5月	13.9	377	27	55.9
6月	14.2	371	26	57.1
7月	15.2	382	25	61.1
8月	14.4	390	27	57.8
9月	14.6	380	26	58.5
10月	16.8	437	26	67.2
11月	16.2	422	26	64.9
12月	15.5	405	26	62.3
1月	14.8	356	24	59.3
2月	14.6	365	25	58.4
3月	14.1	368	26	56.6

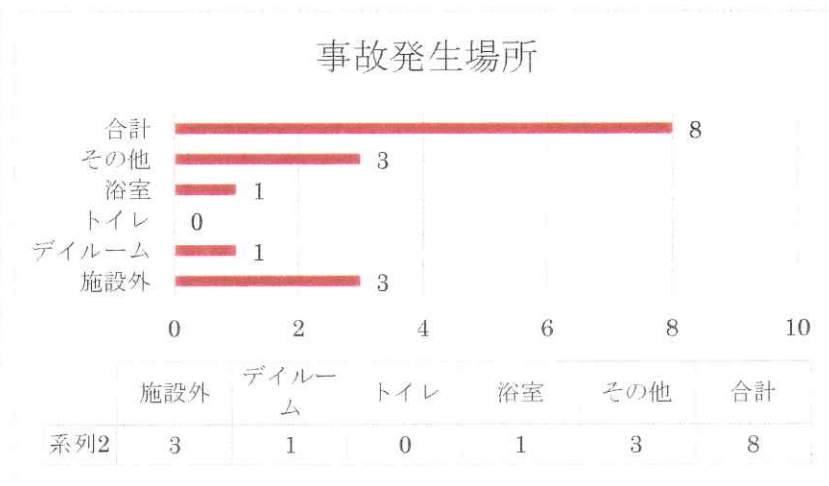
7月頃から利用者増加傾向だったが、週2～5回の利用者の入院や特養への入所、死亡等によるサービスの終了があり、利用者が減少した。新規利用者は要支援の方が多く、週1～2回の利用である。要介護の方も週1～2回の利用の方が増えている。

令和5年度年間事故・ヒヤリハット報告

1. 事故報告

●事故発生場所

場所	件数
施設外	3
デイルーム	1
トイレ	0
浴室	1
その他	3
合計	8

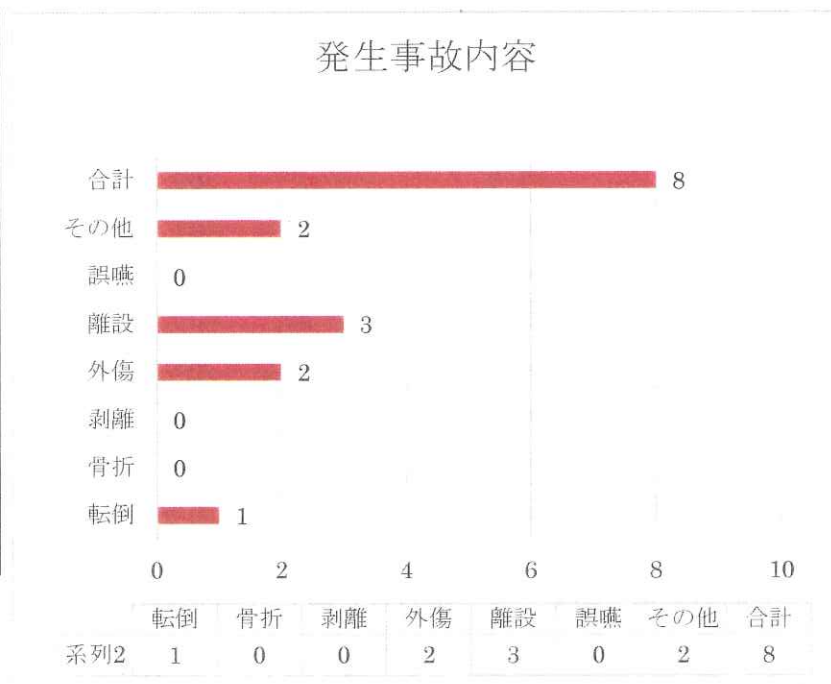


●月別発生件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1	0	2	0	1	1	0	0	2	0	1	0	8

●発生事故内容

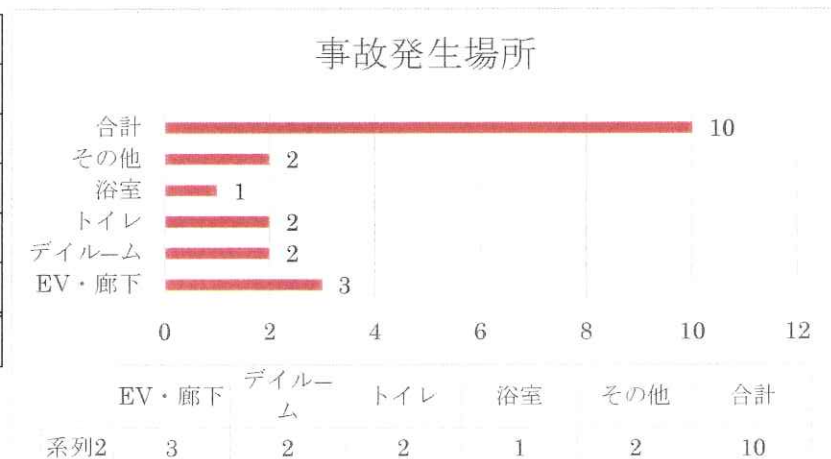
転倒	1
骨折	0
剥離	0
外傷	2
離設	3
誤嚥	0
その他	2
合計	8



2. ひやりハット報告

●事故発生場所

場所	件数
EV・廊下	3
デイルーム	2
トイレ	2
浴室	1
その他	2
合計	10

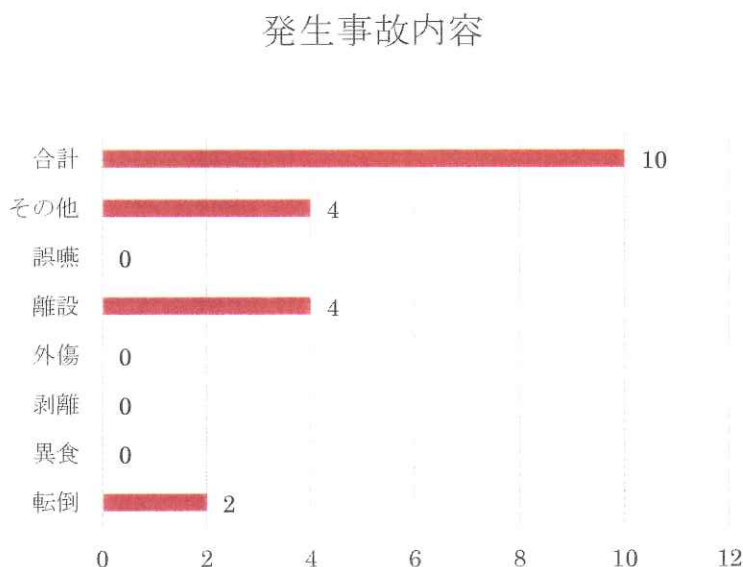


●月別発生件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	0	4	1	0	1	2	0	0	1	1	0	10

●発生事故内容

転倒	2
異食	0
剥離	0
外傷	0
離設	4
誤嚥	0
その他	4
合計	10



※転落は転倒に含む。

※皮下出血は剥離に含む。

	転倒	異食	剥離	外傷	離設	誤嚥	その他	合計
系列2	2	0	0	0	4	0	4	10

令和5年度を受けての課題

利用者常時20名以上、稼働率80%以上を目標にしていたが大きく及ばなかった。利用者20名の曜日もあったが、曜日によってムラがあり、令和5年度は、1日平均14.9名、稼働率59.7%だった。令和6年度は現実的な数字を目標に1日平均17名、稼働率66%を目指す。

行事、レクリエーションでは、積極的に新しいレクリエーションを取り入れ、評価することで、利用者、職員共に楽しく取り組むことができた。今後も楽しみながら身体機能や脳機能の維持、活性化を図れるレクリエーションを提供する。

令和5年度から提供しているお楽しみランチとネイルアート・ネイルケアは、大変好評であるが、ネイルアートは長期間塗ったままになっていることがあったため、管理方法の見直しを行い、継続する。

今後も積極的に資格所得や研修に参加し、職員のスキルアップを図り、利用者一人一人が安心して楽しく過ごせるサービスを提供していきます。

【管理者 小林 知子】

居宅介護支援事業

社会福祉法人光寿福祉会居宅介護支援事業所

利用状況

令和 5 年	請求件数（人）		ケアマネ一人あたりの 月平均担当件数（人）
	要介護	要支援	
4 月	47	36	51.9
5 月	42	36	48.8
6 月	42	42	52.5
7 月	42	40	51.2
8 月	46	40	53.8
9 月	45	35	50.0
10 月	46	36	51.3
11 月	44	30	46.3
12 月	47	32	49.4
1 月	37	32	49.3
2 月	35	28	45.0
3 月	36	26	44.3

年度途中の非常勤職員の交代（令和 6 年 1 月）により、常勤換算数が月 1.6 名から月 1.4 名に変更となる。同時期に利用者の法人特養入所や他施設入所、死亡、介護保険サービス利用中止等々の理由による支援終了が重なった。

令和 5 年度を受けての課題

令和 6 年度介護報酬改定で新設された「指定介護予防支援事業者」の指定を受けたことで、要支援 1、2 の利用者と直接契約を結ぶことが可能となった。

令和 6 年度からは常勤一人体制になるが、ケアマネ一人あたりの持ち件数には上限があるため、要支援利用者数名の委託を夢前地域包括支援センターに返却している。要介護認定の申請（新規・更新）の半数近くを要支援認定が占める事から、ケアマネ一人体制は不利と言わざるを得ず、早期の人員補充が必要である。

また、居宅介護支援の場に於いて、在宅介護であるデイサービス、ショートステイ利用を経て将来的には馴染みのある特養入所、との提案が出来る事は強みでもあり、利用者のみならずご家族の大きな精神的支えにもなっている。各事業所には、法人理念に則ったサービスを期待する。

居宅介護支援事業所では、法人各事業所と連携をとりながら、今後も、地域の方々が安心して住み慣れた地域での生活が継続できるよう支援していきます。

【管理者 志田 聖子】

地域密着型サービス事業

グループホーム（千手荘 I・II 共通）

利用状況

令和 5 年	利用人数（人）	利用日数合計（日）	稼働率（%）
4 月	15	420	100
5 月	15	434	100
6 月	14	408	97.6
7 月	14	400	92.9
8 月	15	434	100
9 月	15	450	100
10 月	15	465	100
11 月	15	450	100
12 月	15	465	100
1 月	15	465	100
2 月	14	412	94.9
3 月	14	431	92.9

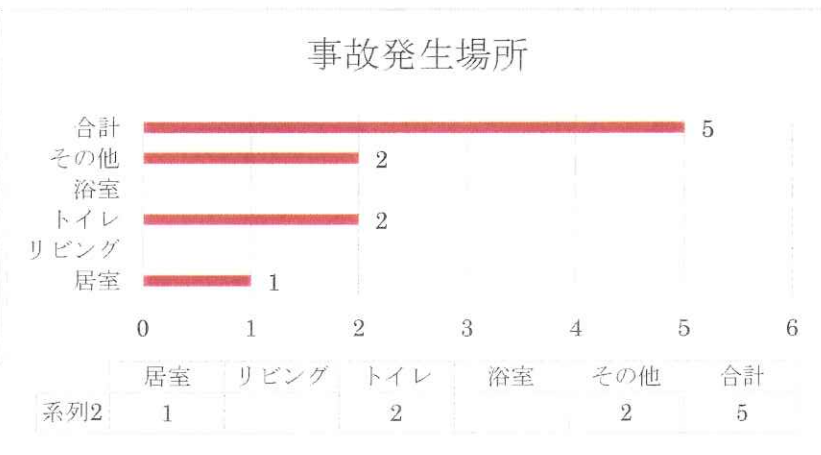
6 月～7 月に入所 1 名、退所 1 名で稼働率が下がり、2 月～3 月にかけて入所 1 名、退所 2 名、入院 2 名で稼働率が下がった。退所された後の新規入所までのスムーズな対応が課題となった。入院に対しては利用者の日頃の健康管理についてが課題となった。

令和 5 年度年間事故・ヒヤリハット報告

1. 事故報告

●事故発生場所

場所	件数
居室	1
リビング	0
トイレ	2
浴室	0
その他	2
合計	5

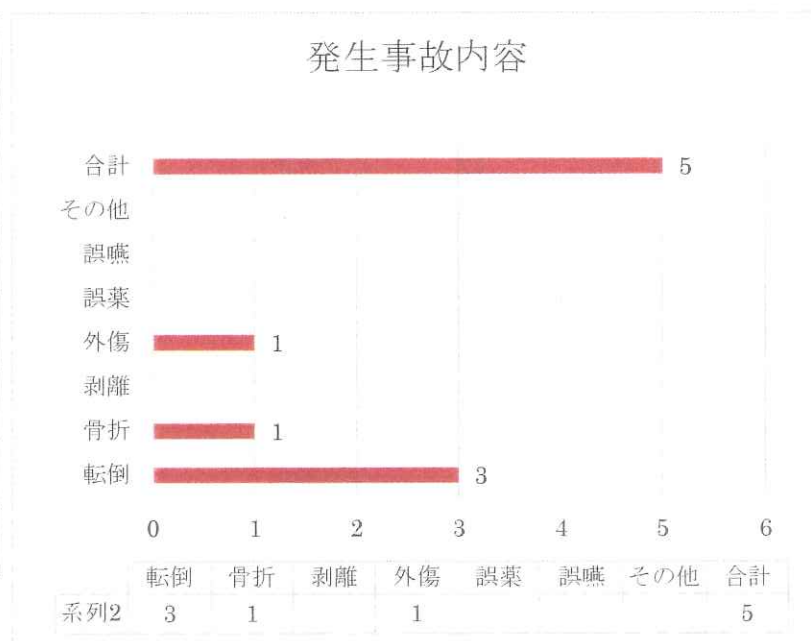


●月別発生件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	1	0	5

●発生事故内容

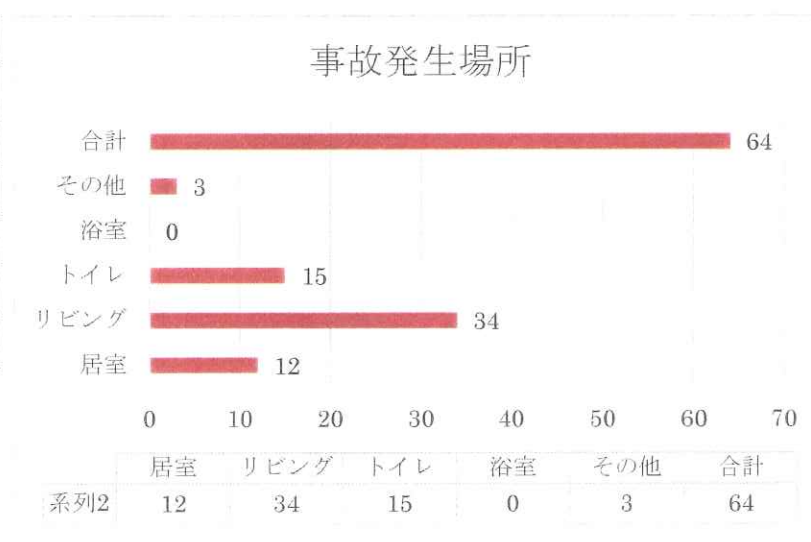
転倒	3
骨折	1
剥離	0
外傷	1
誤薬	0
誤嚥	0
その他	0
合計	5



2. ひやりハット報告

●事故発生場所

場所	件数
居室	12
リビング	34
トイレ	15
浴室	0
その他	3
合計	64



●月別発生件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4	3	5	8	6	6	5	5	6	6	5	5	64

●発生事故内容

躓き	12
歩行器忘れ	25
ふらつき	20
異食	2
虫刺され	2
内出血	3
その他	0
合計	64



令和 5 年度地域運営推進会議実施状況報告

2023 年 5 月 20 日	第 1 回実施	2023 年 11 月 18 日	第 4 回実施
2023 年 7 月 15 日	第 2 回実施	2024 年 1 月 24 日	第 5 回実施
2023 年 9 月 16 日	第 3 回実施	2024 年 3 月 16 日	第 6 回実施

令和 5 年度を受けての課題

グループホームは入所定員 15 名と少なく 1 名の入院、退所が稼働率に大きく影響するため普段からの利用者の健康管理の強化が課題となる。しかしながら高齢になる利用者は入院を余儀なくされる。そこで部屋を長期間空けないよう、新規入所までのスムーズな対応が求められる。他事業所間の連携に加え常時 20 名以上の待機者を確保することを目標としたい。

またグループホームは地域密着型サービスであるため年間 6 回の運営推進会議の開催を行い地域の声に耳を傾け地域福祉に貢献していく。さらにグループホーム内では認知症に特化した認知症実践者リーダー研修、認知症実践者研修受講者の受講者を増やし適切なケア、サービスの質の向上の為の職員教育を行っていく。そのことでケア面、体制面で第 3 者評価での高評価を受けることができると考えます。

令和6年度の目標として年間稼働率98%以上、事故件数を3件以下、ヒヤリハット報告書の提出を70枚以上とする。また苦情件数0件、感染対策を強化しコロナ、インフルエンザ、ノロウイルス感染者0件を目指す。またグループホームの理念でもある地域の学校、ボランティア組織と積極的に関わることによって社会的に刺激をもってもらうよう努めていきます。

【西口 拓哉】

令和5年度施設内研修実施報告

開催日時	研修内容	人数
4月6、25日	理念研修 法人、事業所理念を把握し実践に反映できる。	31名
5月8日	介護・看護事例研究入門 介護・看護事例研究の進め方が理解できる。対象者が選定できる。	19名
5月24日	感染症対策① 演習を通じて感染症対策の必要性を学ぶ	17名
6月28日	医療的ケア研修①（バイタルサイン） バイタルサインの正常値を学び、速やかに異常を発見することができる。	26名
7月26日	身体拘束虐待防止研修① 身体拘束、虐待防止の具体的な方法をグループワークを通じて学ぶ。	23名
8月29日	BCP研修 光寿園独自のBCPを理解することができる。	11名
10月25日	感染症研修② 事例から感染領域のBCPを学ぶ。	11名
11月29日	医療的ケア②看取り 看取りのリーフレットやデスカンファレンス議事録から看取りを捉える。	20名
12月13日	リスク研修①KYT KYTを行い、グループワークで確認していく。	8名
1月30日	身体拘束虐待防止研修② 外部研修伝達講義とグループワークで知識を深める。	19名
2月6、20日	理念、目標管理研修 目標管理の意義を学び来年度の部署目標、個人目標に反映することができる。	19名
3月19日	リスクマネジメント研修② クレーム対応の事例に対して背後に見えるリスクは何かをグループワークを通じて理解を深めていく。	11名
3月26日	令和5年度実践報告会 取り組んだ事例をまとめ研究として発表ができる。	11名

令和5年度苦情受付報告

法人運営 会議にて	内容	原因	対策
5月	退所された入居者家族様より契約の分かりにくさ、親切丁寧な説明、対応に欠けていたと苦情があった。（特養）	入居段階で重要事項の説明が不十分であり、ご家族様、施設間の情報共有が図れておらず不信感を招き、予期せぬ退所となってしまった。	介護保険課や無料法律相談を活用し入居者様、ご家族様に安心してもらえるよう、重要事項説明等を分かりやすくし、入居時の説明時、大切な部分を繰り返し説明するようにした。
7月	入居時、ご家族様と職員で話し合った際に、まだ入居していない状態で、生活できる、できないの判断を迫るのはどうかと職員の対応に苦情があがった。（特養）	アセスメントもしていない状況で、職員、施設目線でリスクに重点を置いた話をしてしまい、ご家族様に一方的だと不快感を抱かせてしまったことが原因であった。	入居時、どの入居者様も環境が変わり落ち着きがなくなるのが当たり前である、という考えに立ち、入居者様に寄り添ったケアを目指す。本人様が好きな草花の手入れなど趣味や特技を生かした日中活動を提案し楽しみを持って暮らしてもらうように工夫した。
	送迎時、突然の雨で利用者様の衣服が濡れてしまい、どのような状態であったのかと苦情があがった。（デイサービス）	玄関先で傘をさし対応していたが、豪雨で風も強かったため濡れてしまった。着替えて送迎することもなくそのまま自宅へ送ってしまった。	玄関先ではなく、しっかりと車両を玄関屋根の奥まで入れ1台ずつで対応していく。今後、服が濡れた場合など着替えをし、ご家族様に状況を説明することとした。
	特養主催の買い物イベントでデイサービスの利用者様が購入を希望された際、職員の説明が不十分であり、ご本人様に不快な思いをさせてしまい、デイサービス管理者が謝罪と事情説明のため自宅を訪問した。（特養・デイサービス）	初めて行うイベントであり他事業所への周知や注意喚起ができておらず、混乱を招いてしまったことによるものであった。	イベントの周知徹底を行っていくことを後日会議で取り上げた。今回は理解してくれたであろうという職員間の思い込みが大きく関係した。法人運営会議等全体会議でしっかりと発信していくこととした。

8 月	入所して徐々に ADL が低下していたにも関わらず職員が気付かず、ご家族様の意向で緊急的に退所となった。 (ショートステイ)	初めてのショートステイ利用ということであったが担当ケアマネジャー、相談員、フロア担当職員、デイサービス職員間で情報共有ができておらず、普段からの違いに気付くことができなかった。	各会議、研修で今回の件を報告し、情報を共有した。またバイタルサインという基本的な内容の研修を継続していくことを検討した。また職種問わず、関わりをしっかりとつよう各部署に指導した。
10 月	利用時、テレビのリモコンが故障しており利用者様に迷惑をかけてしまった。そのことで謝罪と事情説明のため自宅を訪問した。 (ショートステイ)	テレビのリモコンが故障しており、職員が主導でチャンネルや音量を調節したことが、勝手にテレビを切られてしまった、テレビの好きなチャンネルで見せてくれなかったという感情を抱かせてしまった。	改めて設備の点検、故障リモコンの交換を行った。またショートステイ職員に改めて経緯を説明し、少しの対応がご本人様、ご家族様に不快感を抱かせてしまうことがあることを指導した。
11 月	利用時の職員の言動に気分が落ち込むという内容をご家族様が聞き、施設に対して苦情があがった。 (ショートステイ)	施設職員として守っていたきたい内容を伝える姿勢が、専門職としての立ち居振る舞いとして配慮に欠け不適切であった。	担当した職員と面談を実施した。施設として守っていたきたい内容は毅然とした態度で伝えつつ、ご本人様の性格やこだわりを尊重した態度、言動が求められることを指導した。
1 月	利用後、数日して右上腕骨折の診断が出る。担当ケアマネジャーから問い合わせがあった。後日謝罪と事情説明のため自宅を訪問した。 (ショートステイ)	夜間、トイレ誘導後、ベッド上で姿勢を正す際、麻痺側液下に手を入れ力が加わった。	協力ユニットの職員が対応したため、トイレ誘導後の臥床介助が統一できておらずご本人様のできる動作を職員が誤った手順で行ってしまった。事故後、検証し正しい手順を関係ユニットに伝達した。

役員会

役員会名等	実施日
外部会計指導（フォースイト・パートナーズ）	2023 年 5 月上旬
監事監査（1）	2023 年 5 月 5 日
監事監査（2）	2023 年 5 月 18 日
定例理事会 令和 4 年度事業報告、決算報告	2023 年 5 月 27 日
定例評議員会 令和 4 年度事業報告、決算報告	2023 年 6 月 11 日
臨時理事会 定款変更、就業規則変更	2023 年 10 月 29 日
臨時評議員会 定款変更、就業規則変更、令和 3 年度書面評決やり直しについて	2023 年 11 月 5 日
臨時理事会 施設整備について、職員のコンプライアンスについて	2023 年 11 月 26 日
定例理事会 令和 5 年度補正予算、令和 6 年度事業計画、予算	2024 年 3 月 24 日
定例評議員会 令和 5 年度補正予算、令和 6 年度事業計画、予算	2024 年 3 月 31 日

消防訓練

事業所名	実施日（第 1 回）	実施日（第 2 回）
特養、ショートステイ	2023 年 5 月 19 日	2023 年 11 月 24 日
デイサービス	2023 年 5 月 19 日	2023 年 11 月 27 日
グループホーム	2023 年 8 月 8 日	2024 年 3 月 6 日

主なイベント

イベント名	実施時期
物故者法要	2023 年 8 月 6 日（中止）
夏祭り	2023 年 8 月 23 日（特養、ショートステイ、デイサービス） 2023 年 8 月 27 日（グループホーム）
敬老会	2023 年 9 月 18 日（事業所ごとに実施）
クリスマス会	2023 年 12 月下旬（事業所ごとに実施）
新年会	2024 年 1 月上旬（事業所ごとに実施）